

自立支援の視点での気づき

管理栄養士・栄養士

日常生活を営む上で基本となる食事について、適切な栄養摂取と
いった観点から助言
(介護予防活動普及展開事業 専門職向け手引きより(天草市地域包括ケアナビ掲載))

●管理栄養士への感想

- ・水分補給の重要性・目安量(経口補水液の活用、コップの方が水分量が把握しやすい)を知ることができた
- ・栄養状態や食事量の把握を見落としやすい
- ・飲酒による病気や認知症状への影響
- ・たんぱく質摂取の重要性
- ・味付けにメリハリをつける
- ・体重変化の把握の必要性を助言で気づくことができた
- ・食事や嗜好食品の摂りすぎが心身に与える影響を知ることができた

●管理栄養士自身の感想

- ・糖尿病の食事等深く伝える必要がある
- ・低栄養者に対する支援方法の普及が必要
- ・自宅で食事制限を行うことが難しい
- ・包丁を使わず野菜が細かく切れるなど具体的な提案

●管理栄養士へのお願い

- ・独居や高齢者世帯など潜在的に低栄養になっている対象者に対する在宅ケアで注意すべきこと等支援方法を知りたい
- ・タンパク質の必要量、食べ方の工夫等知りたい

25

自立支援の視点での気づき

歯科衛生士

口腔衛生や咀嚼等の食べ方を支援する観点からの助言
(介護予防活動普及展開事業 専門職向け手引きより(天草市地域包括ケアナビ掲載))

●歯科衛生士への感想

- ・口腔面のアセスメント(歯の状態、保清)をしていなかったことに気づけた
- ・認知症予防には口腔ケアが重要(舌の汚れ、口の渇き)
- ・口腔の大切さがわかった(忘れがち)、口腔ケアへの意識が低い
- ・歯の状態・唾液マッサージ・舌の動き・歯磨き等促しが必要
- ・食前の簡単なウォーミングアップ体操の実施

●歯科衛生士自身の感想

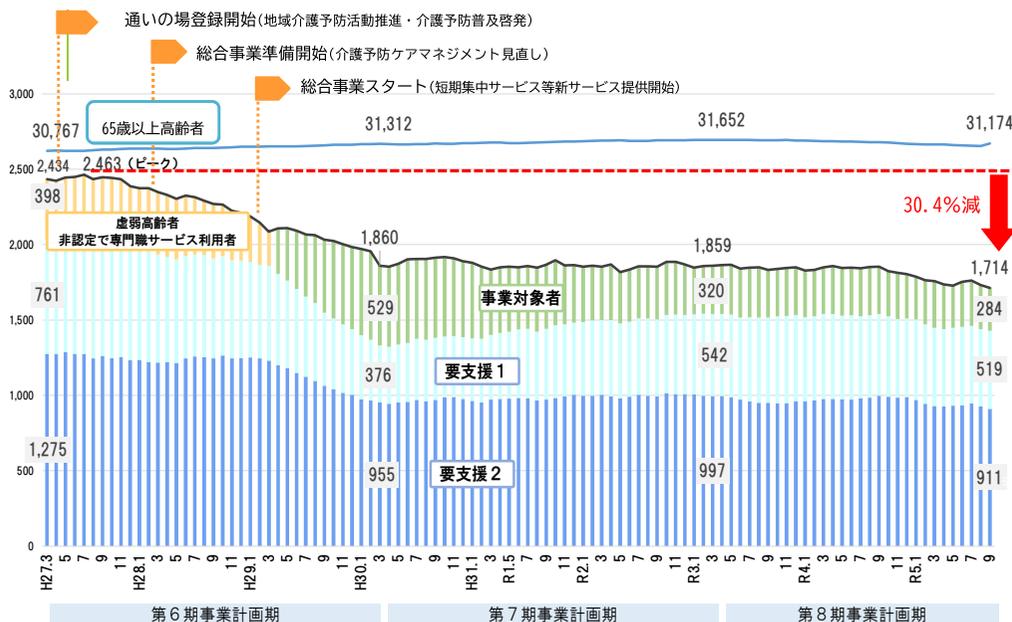
- ・歯科受診や嚥下体操など自宅で行えることの普及が必要
- ・自宅でできる運動(食前体操・舌出し体操)のマニュアル配布が必要
- ・口腔内チェックや歯ブラシのチェックが必要
- ・義歯の取り外し、保存、清掃方法の周知
- ・口の健康の大切さを理解した歯科受診の促しが必要

●歯科衛生士へのお願い

- ・口腔(呼吸)に関する研修の機会をつくってほしい
- ・口腔機能低下前の口腔機能向上の運動を知りたい
- ・感染症や誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアを知りたい
- ・義歯がなく歯茎のみで食事をする対象者の口腔機能・リスクについて知りたい
- ・歯磨きの仕方など口腔ケアの資料が欲しい

26

取組の成果(要支援認定者や虚弱高齢者の減少等)



27

取組の成果(様々な取組成果が評価点数を伸ばした！)

がんばっている保険者(市町村)へのインセンティブ

平成30年度の介護保険制度改正において、保険者機能の強化等による自立支援・重度化防止に向けた取り組みの推進を図るため開始

●平成30年度より「**保険者機能強化推進交付金**」：自立支援・重度化防止の評価

●令和2年度より「**介護保険保険者努力支援交付金**」：介護予防取組みの評価

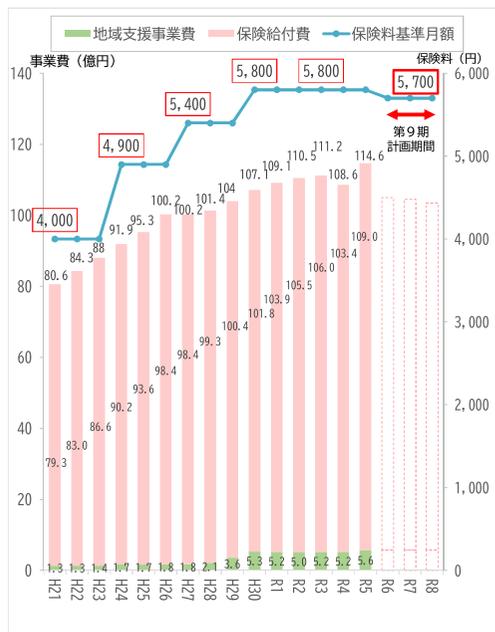
※毎年評価指標・項目・点数は変更がある。毎年、質を高める取り組みが必要になる。

	保険者機能強化推進交付金			保険者努力支援交付金		
	得点/配点	交付額(千円)	順位 県/全国	得点/配点	交付額(千円)	順位 県/全国
H30	546/612	19,936	1/110			
R01	576/692	19,544	3/105			
R02	1,332/1,575	24,624	1/5	738/870	27,396	1/3
R03	1,318/1,590	24,408	1/7	738/885	27,117	1/4
R04	1,138/1,375	24,314	1/16	605/730	28,098	1/8
R05	1,067/1,355	16,331	1/40	650/830	24,107	1/11
R06	292/400	10,484	2/83	289/400	21,726	3/68
計		139,641千円			128,444千円	

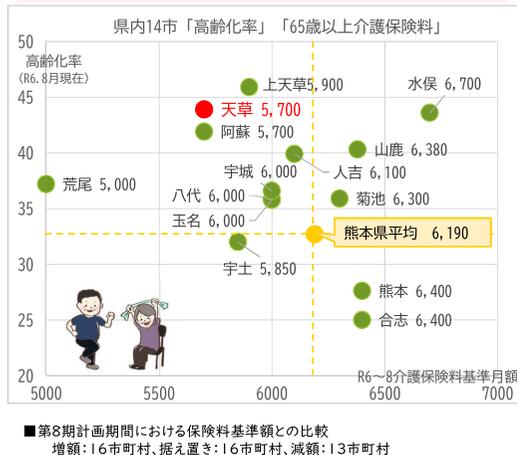
▼介護保険法第122条の3第1項の規定に基づく交付金

28

■取組の成果「保険者機能評価の高得点」⇒「介護保険料の減額」



本市は県内でも高齢化率が高い地域だが、熊本県平均よりも保険料は低い。
 これまでの本市の取組と保険者機能評価の得点に応じた交付金が保険料の軽減に一躍を担い、介護保険事業費の上昇も抑えられ、介護保険料は減額に至っている。



■第8期計画期間における保険料基準額との比較
 増額：16市町村、据え置き：16市町村、減額：13市町村

■今後の方向性について

【介護予防の推進】

- ▼活動不活発者の把握による重度化防止（早めの介入・早めのつなぎ）
- ▼世代に応じた高齢者の「興味・関心のあること」の把握による地域づくり（介護予防メニュー検討・既存の活動を活かす・介護予防活動を行うリーダーの発掘）

介護予防把握事業をベースにした事業の連動

【地域支援体制づくり】

- ▼移動（買い物・病院受診・社会参加など）の目的を踏まえ、地域支援における移動課題の解決。
- ▼グループ内での見守りや助け合い（小さなグループ活動を増やす）
- ▼通いの場の参加者のうち支援を要する人が増えてきているため、地域支援者による新たな通所サービスの形態。

■地域包括ケアシステムの目指す方向性について

地域包括ケアシステムの目標：

『地域の実情に応じて、高齢者が、可能な限り、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる』



どんな状態になれば成功なの??



現状：「人がケア（提供者の都合）に合わせる仕組み」

目標のイメージ：

『人（の状態変化）にケアを合わせる仕組み』

【成果の見える化】 転々生活の減少
 【そのためには】 事業所間の連携不可欠

●保健医療科学2023 Vol.72 「保険者が『地域デザイン』に基づく地域包括ケアシステムの構築に向かうための条件と課題」より引用

■地域包括ケアシステム構築にはリハビリ職の関与は不可欠！！

多職種でもソーシャル・キャピタルの醸成を図りましょう！！

- わかっているようでわかっていないお互いの役割
- つながっているようでつながっていない連携
- 減少する専門職を効果的・効率的に地域活用！！
- リハビリ職の知識や技術を地域に還元！！



それぞれの地域の行政・地域包括支援センター・ケアマネ・サービス事業所・地域の支援者等々とまずは繋がってみましょう！